

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	23229005	研究期間	平成23年度～平成27年度
研究課題名	NKT細胞系列決定・機能発現メカニズム	研究代表者 (所属・職) (平成28年3月現在)	谷口 克 (理化学研究所・統合生命医科学研究センター・グループディレクター)

【平成26年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)		
<p>本研究は、リンパ球の一種であるNKT細胞について、その細胞分化、機能の発現機構を明らかにしようとするものであり、幾つかの重要な進展が見られ、研究は概ね順調である。例えば、胸腺におけるNKT細胞の分化と細胞系列の決定機構に関して、NKT細胞の前駆細胞が存在する胸腺細胞分画を同定することで、NKT細胞が他の胸腺細胞とは異なる細胞分化系列を取ることを示した。同時に、前駆細胞の段階で、機能的に異なるNKT細胞への分化能が既に決定されていることを示した。今後、NKT細胞分化の詳細な分子機構の解明を進めるとともに、それに基づく機能的に安定なNKT細胞の能率的作製法の開発により、ヒト免疫疾患の治療への応用が期待される。</p>		

【平成28年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部十分ではなかった。
A-	<p>本研究で目指したナチュラルキラーT (NKT) 細胞の分化と機能の発現機構の解明に関しては、様々な斬新なシステムに基づいた研究が展開され、当初目標に対し、ほぼ期待どおりの成果があった。</p> <p>一方、研究進捗評価の際に期待された、NKT細胞分化の詳細な分子機構の解明に基づく機能的に安定なNKT細胞の能率的作製法の開発と、その成果を用いたヒト免疫疾患の治療への応用という点では、少なからぬ標的分子の同定がなされたが、ゲノムワイドなエピゲノム解析といった点では当初の目標を達成しておらず、まだ応用の道筋を十分に明らかにしきれていない。</p> <p>また、研究成果についても、国際的な学術雑誌等において、より積極的な発表が望まれる。</p>